



タイトル	アメリカと中国は偉そうに嘘をつく
著者	たかやままさゆき 高山正之
出版社	徳間書店
発売日	2015年2月28日
ページ数	261頁

本書のまえがきに「ちょっと辛辣だけど毒があるからためになる」。この世界がいかに残酷で狡猾ずるくてインチキかを新聞は書かない。大新聞が書かないことを書く。それを心掛けてきた。どこかに行きたくなったら、本書を読めば、生きて帰れるかどうかの見当はつく。その参考にしてもらえれば幸せだとある。

戦後 70 年の今年、歴史問題がまたぞろ再燃しそうだ。安倍首相は河野・村山談話に続く新たな談話を発表する予定だが、すでにアメリカからは河野・村山談話を逸脱しないよう牽制球を投げ込んできた。中国の習近平と韓国の朴槿恵は、共闘して日本の歴史責任を迫及してくるだろう。そのうしろでアメリカが中韓の日本叩きを容認する構図だ。もう日本人はアメリカや中国、韓国、朝日新聞のウソに騙されてはいけない

早速、本文に入ろう。

付き合ってみると支那人とアメリカ人はよく似ている。大声で話す、どこでも半パンツ、くらはいは他所にもありそうだが、「平気で嘘をつく」はこの二つの国民に敵かなう者はない。

戦前の米外交官ラルフ・タウンゼントがある日、地下室に行くとき支那人の使用人が石炭をバケツ一杯入れて盗み出すところだった。使用人は言う。「旦那様の石炭が少ないので私の家から持ってきたところですよ」

高官も使用人と変わらない。可哀相な人生を歩んだ周恩来の嘘は絶品だった。彼は米国留学を志して当時は易しかった精華大学を受けたが、落ちた。次に誰でも入れる東京高等師範を受けて、落ちた。滑り止めの共産党を受けたらやっと入れた。

昭和 47 年、田中角栄が国交回復のため北京に行ったところ、尖閣に石油が出ると知った

支那人がもの欲しそうに騒いでいた。角栄が周恩来に、上に立つものがたしなめたらと諭したが「今は尖閣を話す時間ではない」と逃げた。彼の咄嗟の嘘のおかげで支那は尖閣をもう少しで騙し取られるところまできている。

米国も上から下まで嘘をつく。西沢潤一の光ファイバーは米コーニング社が特許を盗み、逆に日本企業を訴えて金^{かね}までとった。

南極越冬隊の忠^{ちゅう}鉢^{ぼち}繁^{しげる}が1983年、オゾンホールを発見すると米学者S・ローランドが俺の予言が当たったとか言ってノーベル賞を横取りした。高峰譲吉のアドレナリン発見も米学者エーベルが俺の方が先と嘘を言って栄誉を盗んだ。米医学会も嘘を承知で今も彼の命名したエピネフリンの名を残している。

農林10号は日本が生んだ小麦の多収穫品種だが、戦後GHQが盗み、米国製と偽ってこれまたノーベル平和賞を取っている。。。。。。。



当時の日本人は、何故ノーベル賞がもらえなかったか。

北里大学と慶應義塾大学医学部の創始者である北里柴三郎が第1回ノーベル賞の最有力候補だった。ノーベル賞が創設された1901年の第1回ノーベル医学・生理学賞は、ドイツのフォン・ベーリングの頭上に輝いた。受賞理由は「ジフテリアの血清療法の研究」である。このベーリングの業績は、北里と共同で行われた研究であり、受賞の決定的理由となった論文の大半は、実は北里のやった研究成果だった。

しかし、ノーベル医学・生理学賞の選考委員会は、ベーリングのオリジナリティーに軍配を上げたために、北里は惜しくも第1回ノーベル医学・生理学賞の栄冠を逸してしまった。

現在のノーベル賞の選考方法であれば、間違いなくベーリング、北里の共同受賞になったであろう。しかし、当時のノーベル財団は、単独受賞しか考えていなかった。

その後、野口英世が1911年に梅毒の病原体スピロヘータを、マヒ性痴呆患者の脳の中らから発見して世界に示した。それまで、ヨーロッパでは精神病といえ「悪魔つき」、日本では「キツネつき」などと呼ばれていたから、厳密な意味で、精神病を医学の対象にした最初の人物である。

つまり、彼の業績は、精神病の病理を、明らかにした医学史上最初の成果でもあった。彼もノーベル賞候補に2回推薦されるが、最終候補にも残ったが結局、受賞には到っていない。

長岡半太郎の場合はどうだったのだろうか。評者も、長岡の理論は、高校の物理でも習ったが、当時の科学者達の関心は原子の構造がどうなっているか、ということに向けられていた。19世紀の末期に電子を発見したJ. J. トムソンは原子模型としてプリン型のを考案する。これは、水素原子を例にとると、プリン全体が水素原子で、その中に電子が入っていて、原子全体は中性になっていると考え、電子を取った残りのプリンが水素イオンというものである。

これに対して、長岡は地球の周りを月が回っているように、原子の中心に原子核があり、その周りを電子が回っていると考えた。トムソンの模型と長岡の模型の違いは、正電荷を持つ原子核があるかどうかだったが、8年後の1911年のラザフォードの実験によって、長岡の模型が正しいことが証明された。

オリジナリティーは長岡模型にあるわけだが、海外では「長岡模型」とは呼ばず、「ラザフォード模型」と呼んでいる。高校時代に感じた疑問は、オリジナリティーを大切にす欧米で「長岡模型」が何故評価

されなかったのかということだった。

ビタミンB1（オリザニン）の発見者の鈴木梅太郎の場合も、後に様々なビタミンの発見者がノーベル賞を受賞しているにも関わらず、史上初めてビタミン類を発見した鈴木がノーベル賞を受賞していないというのはどう考えても不思議である。もっとも、鈴木を受賞には東京大学医学部が「脚気伝染病説」という間違っただけの説に固執するあまり、鈴木が「脚気の原因が食べ物である」という説を否定し、鈴木がノーベル賞を受賞を牽制したともいわれている。

山極勝三郎の「コルタールによる発ガン説」に対しては、「寄生虫による発ガン説」のフィビガーが受賞した。しかも、前者が正しく、後者が間違っていたにもかかわらずである。

北里、鈴木、山極の3人はノーベル賞を受賞していてもおかしくないのに、同じ実績で

- ①北里の代わりにベーリングが
- ②鈴木のかわりにエイクマンとホプキンスが
- ③山極のかわりにフィビガーが

それぞれノーベル医学・生理学賞を獲得している。

このように、20世紀初頭、何故か日本人の業績は海外では認められていない。というのも、当時は現在とは比較にならぬほど人種差別（いわば、白人の優越感）が強く、しかも人種差別への声もほとんど聞かれない、今日では想像も出来ないが、それが美徳ですらあった時代だった。

つまり、ノーベル賞候補であった北里らが、遠い異国の日本人であり、文明程度の低い日本人にノーベル賞を与えるよりも、同じヨーロッパ人に受賞させたいとする人種的偏見が奥深く働いたからである。

欧米人が、白人にしかできないと思い込んでいた自然科学の分野で、日本人も多くの業績を残すようになった。この時期、自然科学を「欧米人と肩を並べて研究出来る」と確信した有色人種は日本人だけだったわけだ。したがって、その後有色人種の活躍が始まるようになったのも、日本人のこの分野への貢献が大きく影響したと考えてよいだろう。

いずれにしても、当時の感覚では、下世話に言えば「日本人は業績はいいが、顔色が悪い」ということだったのだろう。……………。

慰安婦の嘘の後ろに米国がいる。明治の日本に感嘆したイザベラ・バードは朝鮮にも行っている。家は掘立小屋。悪臭を放つドブ。女に名はなく、子を産むとおっぱいをむき出しにする風習はニューギニアだってない。奴隷制も生きていて、民の4割を占めた。彼らには人権はなく、両班（高麗、李氏朝鮮時代の支配階級）は懲らしめに縛った小作人の足の間には棒を入れて足の骨を折る拷問をやる。汚職は日常化していた。バードは「内部からの改革は不可能」と匙を投げている。

セオドア・ルーズベルトも実態を知って20世紀早々、朝鮮にあった米国公館を閉じた。前代未聞の「国交断絶」だった。朝鮮が文句を言うと「統治能力もない、国じゃない」と答えた。そんな朝鮮を「日本だけは思いやりをもって接した」と米大使シルが書いている。福沢諭吉もその一人だ。

朝鮮の青年を日本に留学もさせた。しかし彼らは慶應義塾の金庫を壊して金を盗み、遊

興にふけた。諭吉は「支那朝鮮に特別の会釈に及ばず」（脱亜論）と失望感を隠さなかったが、平気で恩を仇で返す彼らの習性に多くの日本人はその時はまだ気付かなかった。

米国は日本の占領を予定してカイロ宣言を出した。その中に「強欲と暴力で領土を取り」とか「朝鮮人を奴隷にして」とか、事実無根の中傷を紛れ込ませた。

米国は奴隷が国の基だ。ハワイやフィリピンは騙しと暴力で取った。それが気恥ずかしくて、日本も米国の同類項に見せようとする細工だった。戦勝国になった後はそんな嘘も力づくで通用させた。

江沢民は敏で、米国の嘘に乗った。「そうです。日本は残虐でした」と絵空事の南京大虐殺を本当だと言い出した。米国が宣教師ベイツに東京裁判で1万2千人と証言させた虐殺者数を江沢民は一举に30万人に増やして騒いだ。米国は喜び、アイリス・チャンを応援に出し、支那は3兆円のODAを得た。朝鮮もそれを見て米国の嘘に乗った。「そうです。日本は朝鮮人女を拉致して性の奴隷にしました」。性の奴隷の数を中央大学の吉見義明は当たるも八卦で8万人としたが、朝鮮側は江沢民を真似て20万人に膨らませた。

ソウルの日本大使館前には、統一教会の日本人信者も加わって慰安婦像が置かれ、米ニュージャージー州パリセイズパーク市にも「20万人慰安婦」の碑が建てられた。偽りの碑文に日本人は怒った。米国がそんな嘘を放っておくのかとホワイトハウス宛にもう3万通以上の請願が届けられたと新聞にあった。

それにヒラリーが答えた。「慰安婦 (comfort women) ではなく性の奴隷 (enforced sex slaves) でしょうが」（朝鮮日報）。

米国は自国の都合に合わせて平気で歴史を歪めてきた。日本が残忍な奴隷国家だといったのも米国の都合が生んだ嘘だ。それに支那朝鮮が同調した。嘘がホントっぽく見えてくれば米国は大歓迎だ。ヒラリーは自国の嘘をただ追認しただけだ。米国が公平で正しい国なんて言う幻想は早く捨てるがいい。



アイリス・チャンは新聞記者を夢見てシカゴ・トリビューンで働いたが、筆力もセンスもなくて大学院に戻った。失意の彼女に言い寄ったのが抗日戦争史実維護連合会の史詠ら。26点の偽写真と「性器を切り取り」、「臓器を切り裂き」、「舌の根に鉄のフックを通して吊るす日本軍」の見てきたような話を彼女に書き並べさせた。出来上がった「Rape of Nanking」に米国は喜んだ。

米国は原爆という人類最悪の非戦闘員殺しをやった。日本軍はバターンで捕虜を60キロも歩かせた、残忍だったと大量虐殺を正当化する嘘を並べたが、今一つ説得力がない。嘘とはいえ、支那人がそう主張してくれるのは百万の援軍になる。ワシントン・ポストもニューヨーク・タイムズも彼女の本を絶賛し、ベストセラーに押し上げた。

彼女はいい気になる。新進の社会派作家のつもりで米国に黒人代わりに苦力として買われ、用済み後は殺処分されていった同胞支那人の物語を書いた。「5千年間チベットもウイグルもモンゴルも支配した栄光ある支那人はここで虐殺された」と。

米紙の書評は一転「歴史の裏付けもない」、「軽薄な駄作」とこき下ろす。落ち込む彼女に米国が再起の

チャンスとして与えたのが「パターン死の行進」。日本の悪口を尤もらしく書くのがお前の仕事だと。アイリス・チャンは支那人には珍しく良心があった。調べればたった 60 キロ。米国人の嘘に呆れた。でも嘘はもう書けない。悩んで鬱の果てに彼女はサンノゼ市の自宅近くで拳銃自殺した。……(折節の記 平成 27 年 5 月号)。

またぞろ、アメリカの日本企業潰しが始まった。

ほんの 4 年前のことだ。サンディエゴを走っていたレクサスのドライバーが 911 番して「車が止まらない」と通告し、絶叫を残し交差点で衝突事故を起こした。家族 4 人が死んだ。米メディアは飛びついた。トヨタのエンジンの電子制御に異常があったのではないか。ああいう国だ、すぐ「私のトヨタ車が暴走して壁にぶつかった」とか、果てはパトカーを呼んで暴走する車の窓から助けを求める男とかがテレビ画面に登場した。

南イリノイ大の准教授ギルバートが「暴走するトヨタ車のエンジン回転計」を ABC テレビから流した。議会が騒ぎ、運輸長官ラフードは「トヨタに乗るな」とまで言った。

米国では 80 年代、独アウディ社の車が暴走事故を起こし、死傷者を多数出す事故があった。原因は電子制御盤の封印が甘く、外部の電波を拾ってエンジンの暴走を引き起こしていた。アウディは売り上げを 85% も落とし、事実上、米市場から締め出された。

それが天下のトヨタに起きたと、みんな思った。事故車両は NASA (米航空宇宙局) に持ち込まれた。欠陥が見つかるのは時間の問題だと思われた。カリフォルニア州の検事局は「トヨタは欠陥を隠して利益を得る詐欺商法をした」と 1 台 2500 ドルの罰金を科す訴えを州地裁に起こした。議会は豊田章男 CEO を公聴会に呼びつけて吊し上げて罵った。

朝日新聞の主筆 (当時) の舟橋洋一は 1 面で「トヨタは今や欠陥商品の代名詞になった」と書き、「トヨタがこれほど無能とは驚きだ」、「トヨタには経営の明晰さが欠けている」という米国人の一方的な罵詈雑言をそのまま並べた。

白人さまの言うことに間違いはない。船橋は彼らの尻馬に乗って、トヨタの滅亡を語り「いずれ支那の電気自動車は米国を制覇する」と予言した。

しかし二年経って NASA は欠陥を発見できず、逆にギルバートの実験は悪意ある捏造で、暴走者のドライバーの多くもトヨタから金を強請る目的だったとばれた。

ラフードは「娘にトヨタを買うように勧めた」と恥ずかし気に言い繕ったが、舟橋も朝日新聞も何も言わなかった。朝日は吉田清治の嘘だけじゃない。真実など語ったことがない。……。

米国は先の戦争で沖縄だけは何人戦死しよう構わず取りに来た。ハワイ、グアムにつながる太平洋横断の戦略拠点にするつもりだったからだ。だからサンフランシスコ講和条約でも米国領で残した

しかし沖縄の民は日本人のままだった。屋良朝苗^{ちようびょう}は「日の丸を立てたい」と訴え、本土復帰前の昭和 42 年、米国は日の丸の掲揚を認めた。みんな日の丸に泣いた。

ケビン・メアは今の沖縄人が政府から好きに補助金をたかっていると指摘したが、米政府はその1万倍、あくどかった。

財政破綻中のニクソンには基地は必要でも百万沖縄人はいらなかった。で、佐藤栄作に施政権を返す。その代り基地の維持費用も人件費もみな日本が負担しろと強請った。

栄作はそれで屋良朝苗の思いが叶うならとOKした。日本以外の在外米軍基地はみな米国が経費を負担する。常識外の取引だった。

かくて日本人の血税を注ぎ込んで沖縄が戻ってきたが、沖縄の人々はそれに感謝もせず「基地も出ていけ」と言い出した。

沖縄は戦争で取られた。取り返すにはもう一度米国と戦争せねばならない。

今は無理という「俺たちは支那にくつつく手立てもある」と脅す。政府は宥めるために毎年3700億円の掴み金と基地の街に別途数百億円をばらまいている。

彼らはそれでも不満で、先の知事選ではたかりだけに生きる翁長^{おながたけし}雄志を選んだ。彼を黙らす掴み金は今の財政では無理。再度の日米戦争はもっと無理だ。

でも、ただ一つだけ手段がある。沖縄の施政権を米国に返せばいい。そうすれば基地負担金もいらぬ。翁長は今後はホワイトハウスに抗議に行けばよい。再度の日米戦争も避けられる。何より、米国が持てば、支那に沖縄が持っていかれる心配も消える。……。

本書は、月刊誌「正論」の連載コラム「折節の記」掲載の文章（2011年12月～2015年2月）に加筆・修正を加えたものである。本コラムは、超辛口で、文明史的に現実世界を俯瞰できるうえ、歴史の隙間に埋もれた真実は意外なものであり、同時に我々が知らないことが、これほど夥しい数にのぼるのか、と読み進めるうちに、うーんと唸ってしまう。

現在進行形の、中韓の日本叩きのオリジナルは米国製。アングロサクソンの権謀術数。日本の新聞に書かれない裏の真意。正義を唱えると裏から潰される現実。読み進めるうちに、腹が立って仕方がないという人も沢山出てくるだろう。

今の日本、何かおかしいなと思い始めた人には、お勧めである。本書は、高山節全開の必読書である。

2016.1.5